



山口としや 通信 第46号

故山田前市長、名誉市民へ

3月にご逝去された故山田前市長に、白山市名誉市民の称号が贈られることになりました。

名誉市民とは、学術、文化、産業等公共の福祉の進展に広く貢献し、この功績が顕著であって、市民の誇りとしてひとしく世人に敬仰される者に対し、贈られるものです。(名誉市民条例より)名誉市民推薦委員会が全会一致で推薦し、議会も全会一致で賛同し、贈呈されることが決まりました。

亡くなる直前まで、本市の発展、市民福祉の向上に取り組まれた故山田前市長。その意思を大切にしながら、議員活動に取り組んでいきます。

今、物価高で国民生活は大変苦しいです。しかし、政府は税金を防衛費の増額に使い、国民生活を支えるために使っていません。消費税は増税になっており、減税を求めています。(写真は9月23日県内街宣)



2023年9月議会報告

猛暑対策が必要では？

(質問) 猛暑対策として融雪装置を使って、打ち水をしては。

→ (建設部長) 打ち水は水が蒸発するとき地面の熱を奪い温度が下がることから猛暑対策に一定の効果がある。融雪装置を使った他市の事例によると、散水地点では温度が下がるが、数メートル離れると効果が感じにくいとのことでした。

ポンプや制御盤の点検や管の清掃をはじめ、電気契約を冬期から年間の契約に変更しなければならず、新たな費用が発生することなど課題が多くあり、実施は難しい。

(質問) どの程度の経費が増額するのか。

→ (建設部長) 電気料だけで、倍以上になり、かなりの費用になる。

(質問) 今年の夏は、熱中症対策のため各学校の体育館での活動ができない状況が多くあった。二次避難所にもなっていることから、各学校の体育館にエアコン設置は急

務。まずは、中学校の体育館からエアコン設置をすすめ、早期に設置完了するよう計画を策定しては。

→ (教育部長) 学校体育館へのエアコン設置について必要性を感じている。しかし、大きな財源が必要となる。一方、学校体育館の冷房化は全国的な課題。国の動向を見据えながら、中学校だけでなく小学校も含めた計画的な整備を検討したい。

(質問) 国も補助率を3分の1から2分の1に上げている。計画的な整備というが、どの程度の年数を考えているのか。

→ (教育部長) 昨年9月に文部科学省が発表した全国のエアコン設置率は15.3%と前年より9ポイント急上昇している。平野部を優先して設置することが必要と考えている。ただ、時期については、近隣の市町の状況も考えながら対応していきたい。

無償貸付、世界ジオ、観光を問う

(質問) 白峰地区の旧御前荘周辺の施設について2021年1月1日に無償貸付契約を行ったが、事業者は地元へ事業の説明の後、何も事業を行わず、契約の途中解約を求めている。事業者の責任は。

→(観光文化スポーツ部長：以下観光部長) 借受人は、当初の計画に沿って予算を確保し、物件修繕等の準備を進めていたが、施設の改修費用や維持管理費が想定以上であることが判明し、採算見込みが立たなくなったことから、契約条項にのっとり解除の申し出があったものであり、契約上の問題は無い。

(質問) 施設は貸付期間中にかなり痛んだ。施設の貸付前への回復を事業者に求めるべきでは。

→(観光部長) 借受人は日常的な屋根の補修、ガラス交換、物置撤去などを実施することから、大雪による災害が原因で破損した箇所について貸付前への回復を求めない方向で考えている。

(質問) 日々の管理をしっかりしていたのか。

→(観光部長) 定期的な除草、展望の湯の電気・給湯設備の小修繕、いわね荘の屋根の修繕、コテージの雨漏り対策などを行っている。現状草が繁茂した状態であり、見苦しい。市として、その状況を把握しながら、協議指導していなかった点は反省点であり、今後こうならないように、市として監視していきたい。

(質問) 大雪災害で保険適用の部分は市として直す予定はあるか。

→(観光部長) 新たな借受人がでてきた段階で、協議していく。今は、市単独での修繕は考えていない。

(質問) 今後の活用方針は。

→(観光部長) キャンプ場施設や宿泊施設、温泉施設といったそれぞれの使用目的別に

分けた活用も視野に入れてすすみたい。老朽化が著しい施設については、処分も検討していきたい。

(質問) 保険適用は3年以内という期限があるが、期限内に相手方は見つかるのか。

→(観光部長) 相手がいることなので、はっきりと申し上げることはできないが、努力していく。



世界ジオパーク認定！世界に誇れる白山市です。

(質問) 伊豆の世界ジオパークのように、ジオパーク教育のため、探究学習用の冊子を作成しては。

→(観光部長) 市内で行われているジオパーク遠足などの学習活動では、記録カードを使用している。教育旅行の受け入れには、事前学習の動画やオンラインでの公認観光ガイドなどによる事前説明を行っている。引き続きこれらのツールを活用するとともに、効果的な学習ツールとしてどのようなものが必要か検討していきたい。

(質問) ジオパークの認知度向上のため、白山手取川ジオパークの歌を募集しては。

→(観光部長) ジオパークの曲は認知度向上に大変有効。創作活動の盛り上がりは市民活動の盛り上がりである。期間を定めての募集や公認を行わず、歌の情報を頂いた際は SNS 等で周知を行うなど、歌によるジオパークの市民活動の盛り上げについて応援していきたい。

(質問) 「歌ができた際には、申し出て下さい」と周知しては。

→(観光部長) こういう曲を創ったとお知らせ頂きたい。

(質問) 今年で7回目の一里野のイルミネ

ーション。LEDライトの個数は今年1万3千個だが、来年度は1回目の3万個以上に増やしては。

→（観光部長）LEDライトは1個千円と高価で、個数を増やすことは予算的に難しい

と考えている。現在の規模を維持していきたい。

（質問）クラウドファンディングなどでお金を集めては。

→（観光部長）今後研究していきたい。



観光誘客には、投資が必需です。市として大きな投資ができないのならば、民間の力を活用することが大切です。しかし、民間任せではうまくいかないこともあり、市の責任も問われます。

有機農業、花、地域コミュニティ組織の推進を

（質問）有機農業の推進のため、京都府亀岡市が開設する有機農業の学校を本市でも開設しては。

→（産業部長）有機農業の技術を学ぶ学校を開設することは現時点で考えていないが、有機農業拡大は経済・社会・環境の面からも大変重要と考えているので、県・JA等の関係機関と連携しながら、意欲ある農業者が有機農業の技術を学ぶことができる体制の整備について検討していきたい。

（質問）花いっぱい運動で表彰する制度を再開しては。



みどりと花は生活に潤いと安らぎをもたらします。

→（市長）各種団体が行っている優れた活動を発信するとともに、表彰制度の再開についても、更なる緑化推進の定着に向け検討していきたい。

（質問）朝顔と菊は農業振興課が、松任芽は文化課が、桜やその他の花の苗の配布は公園緑地課が担当しているが、一つの課に集約しては。

→（建設部長）花の普及については、各課と各種団体との協力体制が確立されており、それぞれの部署が主となり行ってきたい。

（質問）地域コミュニティ組織に配分する予算について、現在の公民館への補助金に加え、人口や世帯数などを考慮したものを

加えて配分しては。

→（市長）地域コミュニティ組織への交付金について、議員ご指摘の人口割りに応じた加算について考えたい。

（質問）交付額をいつごろ地域コミュニティ組織に伝えるのか。

→（市長）10月に地区の皆さんや公民館職員を対象に開催する説明会において、体制や交付金の概要などを説明する。

（質問）10月の説明会で金額を示すのか。

→（企画振興部長）現時点での方向性を示す。

（質問）地域コミュニティ組織での活用が期待できる電子回覧板アプリを市として導入し、活動の支援をしては。

→（企画振興部長）電子回覧板アプリは、回覧板や情報発信機能に加え災害時の安否確認にも活用できる地域コミュニティ組織の活動に大変有効な情報共有ツールである。現在市の補助金などにより、電子回覧板アプリを導入している地区が2地区、LINE等のSNSを導入している地区が6地区ある。地区の規模や活動の状況に応じて適しているツールが異なるので、どうした支援が可能か、市内各地区や近隣市町の状況を研究しながら、今後検討したい。

（質問）引っ越し場合もあるので、市内で同じアプリを使った方が良いのでは。

→（企画振興部長）共通のものが導入できれば利点も多いが、現在必ずしも共通になっていない。検討課題、研究課題にしたい。



花は生活に潤いと安らぎを与えます。競技性の高い鉢植えの朝顔や菊などの表彰とは別に、自宅や集会所などの花壇についても表彰制度を設けるべきではないでしょうか。

子どもの権利条約の理念を活かそう

(質問) 日本が子どもの権利条約を批准し24年になる。この間、国連の子どもの権利委員会が5回にわたり、「過度に競争的な教育の是正」の勧告を行っている。日本の教育システムが、子どもの発達に悪影響を与えているとの指摘です。教育長はこの勧告についてどのような認識か。

→(教育長) 勧告の内容は承知している。本市では、感性を豊かにする教育を学校教育基本方針に掲げ、心豊かで感性あふれる人の育成を目指し、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成のバランスのよい教育を実施している。競争主義的な教育に当てはまるものではないと認識する。



遊びで非認知能力を身に付けよう

(質問) 過度に競争主義的な教育の象徴的な事業として、全国学力状況調査がある。全数調査を続けるような

ら、全国学力状況調査から離脱しては。
→(教育長) この調査は、年度ごとに結果を把握・分析し、授業改善に役立てることと、一人ひとりの児童・生徒に対する教育指導の改善・充実を図るために全数調査を実施しており、今後も実施する。一方、目的を逸脱した過度な競争を避けるという視点は大変重要。今年度から市の平均正答率は数値ではなく、文章表現での公表とした。

(質問) 12月に県教委が問題を提供し、県内の小学5年生と中学2年生が一斉に取り組んでいる評価問題についても離脱しては。

→(教育長) 県の評価問題は児童・生徒の活用力の課題の把握・分析をすることで授業改善に活かすため本市を含め市町教育委

員会からの要請で作成されているものであり、現状として離脱は考えていない。

(質問) ペーパーテストでは認知能力しかはかれない。非認知能力が大切では。

→(教育長) 我慢強さとか協調性などテストではかれない非認知能力は大変重要。特に幼い頃からの非認知能力の養成・育成は非常に大事。今後、シオ学習の推進も含めて、バランスの良い教育を進めていきたい。

(質問) 就学前の子どもの遊びの中で身につく非認知能力は生涯の学びの基礎となる。そのため保育と教育の連携は大切。保育部門を教育委員会部局へ移管しては。

→(副市長) 市では、地域の保育所と小学校が連携し、交流や学校見学を行っているほか、保育要録を保育所から各小学校に送付し、支援が必要なお子さんについては詳細な情報共有を行っている。幼児教育と小学校教育の円滑な連携と接続が図られている。今後は先進地の事例を研究し、検討課題としたい。

(質問) 非認知能力を身に付けるためには子どもたちの主体性を活かした自然保育が有効。学習会や先進地の視察、モデル園を設定し自然保育を推進しては。

→(健康福祉部長) 現在、市の保育所保育指針を踏まえ、子どもたちの主体性を大切にした保育を目指し日々取り組んでおり、まずは自然体験など子ども主体の保育に関する研修会等に参加し、研鑽に努めるとともに、シオパークでの自然体験を保育に積極的に取り入れていきたい。

現状、それぞれの保育施設で自然体験を取り入れ主体性を大切にした保育を行っていることから特にモデルにこだわらず、保育環境づくりに取り組んでいきたい。



国において、こども基本法が成立し、子ども家庭庁ができました。0歳から18歳までを包括的に支援するため、子育て部局が教育委員会部局に移管し一括して支援する自治体ができています。

※市政へのご意見、ご要望をお寄せください。

TEL: 275-0179

e-mail: toshiya6537@yahoo.co.jp

FAX: 275-0924

※「山口としや通信」は政務活動費を活用して発行しています。